

# 言語変異に基づく フランス語の対照中間言語分析

科学研究費補助金（基盤研究B）の成果  
2016年～2022年

東京外国語大学 語学研究所定例研究会  
2022年度基盤研究B第2回研究会

2023年1月25日（水）17:00～19:00

# 報告の流れ

はじめに（川口裕司）

1. IPCFプロジェクト（大河原香穂）
2. 音声・音韻（伊藤玲子）
3. スピーキング能力、関係代名詞、語彙アスペクト  
（清宮貴雅）
4. 人称代名詞、不定代名詞（鈴木拓真）
5. 談話標識（國末薫）
6. 語彙（時田朋子）

# はじめに

東京外国語大学 川口 裕司

# 基盤研究B

研究期間 2020年度～2023年度 20H01279

研究代表者 川口裕司（東京外国語大学）

言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析

研究期間 2016年度～2019年度 16H03442

研究代表者 川口裕司（東京外国語大学）

フランス語，ポルトガル語，日本語，トルコ語の対照中間言語分析

関連する基盤研究

研究期間 2015年度～2019年度 15H03227

研究代表者 DETEY Sylvain（早稲田大学国際教養学部）

A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French

# 言語変異

- ・母語話者と学習者の言語習得について、共通する現象や類似の習得過程がみられる。
- ・母語話者の言語はそもそも均質な体系だろうか？

社会言語学や変異理論によれば、どの言語をとっても一つとして均質な体系を成している言語はなく、むしろ様々な要因(地理的、社会的、文体的)によって多くの言語変異が観察される。しかしながら言語変異を考慮に入れた中間言語研究は、英語以外の言語では先行研究がほとんど存在しない状況にある。

川口はフランス語圏の研究者たちと共に、様々な国のフランス語学習者の発音特徴を研究し、2017年に*La prononciation du français dans le monde*を出版した。

LA PRONONCIATION  
DU FRANÇAIS  
DANS LE MONDE

DU NATIF À L'APPRENANT

Sous la direction de :  
S. DETEY, I. RACINE, Y. KAWAGUCHI, J. EYCHENNE

CLE  
INTERNATIONAL  
www.cle-int.com

# 対照中間言語分析

対照中間言語分析Contrastive Interlanguage Analysis (=CIA)の歴史

1940年代 対照分析

異なる2言語を比較し、それぞれの言語の特性を解明

1960年代 誤答分析

エラーに焦点が置かれ、学習者言語全体の把握が困難

1980年代 書きことばコーパス

1990年代 話しことばコーパス

主に英語を対象とし、母語話者言語と学習者言語を比較するCIAをSylviane Grangerらが提唱

本研究ではCIAのアプローチを採用し、先行科研Bで培われてきたマルチタスク調査法を用いて、収集された中間言語データを、母語話の話しことばデータと比較対照し、各言語の変異と学習者言語における変異がどのような関連性を持っているのか探求する。

# 1. IPCFプロジェクト

東京外国語大学大学院 博士後期課程 大河原香穂

# IPCFとは：目的

## ● IPCF = Interphonology of Contemporary French

『現代フランス語の中間言語音韻論』 (<http://cblle.tufs.ac.jp/ipfc/>)

## ● IPCFプロジェクトの目的

- PFCプロトコルに基づく(学習者言語の)研究コーパスを構築すること
- フランス語を第一言語としない話者たちによって話される口語フランス語に関する情報を学習者や教育者に提供

➡学習者はより多様な言語変異に習熟することができ、教育者たちも専門家育成のためにその情報を活用

川口ほか(2012)

# IPCFとは：意義と独創性

- 従来の第二言語学習者コーパスは語彙や形態統語に焦点

➡ 音韻的観点からの研究は遅れが見られていたがIPCFは音韻的観点に特に焦点

鈴木ほか(2018)

- 現在では20言語の母語話者のデータについてプロジェクトが進んでおり、対照研究が可能：  
ドイツ語、スペイン語、イタリア語、日本語、オランダ語、ノルウェー語、他14言語

# IPCFとは：概要

- 2008年にフランス語の学習者言語についての国際プロジェクトとして発足
  - TUFSS Global COEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」：  
コーパスに代表される実証的な言語科学領域における国際的・先端的な研究者を育成する
  - フランス「現代フランス語の音韻論（Phonologie du français contemporain : PFC）」
    - ➡ PFCのツールとプロトコルを応用
  - 話し言葉コーパス（TUFSSコーパス）と学習者コーパスを構築
  - 上記2コーパスの対照により音声韻律的・語彙的特徴や談話標識等の差異を調査
  - 言語教育への応用を目指す

鈴木ほか(2018)

- 2016年度以降、科研Bの枠組みとして、IPCF関連のデータ収集やIPCFを用いて実際に研究を行うなどの活動を実施してきた
- 現在ではフランス語（IPCF）のみならず、日本語（IPCJ）やトルコ語（IPCT）でも同様のプロジェクトが実施されている

# IPCFでの調査方法とタスク：調査方法

- 各データ間の対照のため、一貫した分析項目リストと調査プロトコルを作成
- 調査項目（タスク形式）
  1. PFC単語リストの繰り返しタスク
  2. 特有単語リストの読み上げタスク
  3. PFC単語リストの読み上げタスク
  4. PFC テクストの読み上げタスク
  5. インタビュータスク
  6. 自由会話タスク
  7. 作文タスク



# IPCFでの調査方法とタスク：タスク①

1. roc 「岩」

1. PFC単語リストを反しタスク (PFCと共有)

● PFC単語リスト

1 roc  
2 rat

2. rat 「ネズミ」

1 roc	19 pêcheur	37 relier	55 étrier	73 botté	89 jeune
2 rat	20 intact	38 décoller	56 chemise	74 patte	90 jeûne
3 jeune	21 décoller	39 décoller	57 brin	75 étriller	91 beauté
4 mal	22 décoller	40 décoller	58 lierre	76 faites	92 botté
5 ras	23 degeler	41 des genêts	59 blanc	77 feutre	93 brun
6 fou à lier	24 bêttement	42 blond	60 petit	78 quatrième	94 brin
7 des jeunets	25 épier	43 creux	61 jeûne	79 muette	
8 intact	26 millionnaire	44 reliure	62 rhinocéros	80 piquais	
9 nous prendrions	27 brun	45 piqué	63 miette	81 trouer	
10 fêtard	28 scier	46 malle	64 slip	82 piquer	
11 nièce	29 fêter	47 gnôle	65 compagne	83 creuse	
12 pâte	30 mouette	48 bouleverser	66 peuple	84 beauté	
13 piquet	31 déjeuner	49 million	67 rauque	85 patte	
14 épée	32 ex-femme	50 explosion	68 cinquième	86 pâte	
15 compagnie	33 liège	51 influence	69 nier	87 épais	
16 fête	34 baignoire	52 mâle	70 extraordinaire	88 épée	
17 islamique	35 pêcheur	53 ex-mari	71 meurtre		
18 agneau	36 socialisme	54 pomme	72 vous prendriez		



# IPCFでの調査方法とタスク：タスク②

2. 特有単語リスト作成タスク

● 特有単語リスト

1. vase 「壺」

1 vase

2 aigle

3 tic

4 teinte

5 sic

6 rat

7 pou

8 port

9 teint

10 ponce

11 tant

12 peur

13 pont

14 tante

15 peau

16 meut

31 la base

2. aigle 「ワシ」

3. tic 「無意識の癖」

25 le gras

26 la vase

27 meule

28 la rave

29 la houle

30 le pas

40 hachis

41 gras

42 foule

43 exprimé

44 eux

45 bâti

46 chic

47 bulle

48 eau

49 bout

50 glas

51 boule

52 bu

53 base

54 balle

55 eu

56 expliqué

57 assis

58 ballade

59 anse

60 Andes

61 bar

62 aigre

# 🔊 IPCFでの調査方法とタスク：タスク③

3. PFC単語リストから単語を上げタスク (PFCと共有)

● PFC単語リスト

**1. roc 「岩」**

**2. rat 「ネズミ」**

- 1 roc
- 2 rat

1 roc	19 pêcheur	37 relier	55 étrier	73 botté	89 jeune
2 rat			56 chemise	74 patte	90 jeûne
3 jeune			57 brin	75 étriller	91 beauté
4 mal			58 lierre	76 faites	92 botté
5 ras	25 degeler	41 des genêts	59 blanc	77 feutre	93 brun
6 fou à lier	24 bêttement	42 blond	60 petit	78 quatrième	94 brin
7 des jeunets	25 épier	43 creux	61 jeûne	79 muette	
8 intact	26 millionnaire	44 reliure	62 rhinocéros	80 piquais	
9 nous prendrions	27 brun	45 piqué	63 miette	81 trouer	
10 fêtard	28 scier	46 malle	64 slip	82 piquer	
11 nièce	29 fêter	47 gnôle	65 compagne	83 creuse	
12 pâte	30 mouette	48 bouleverser	66 peuple	84 beauté	
13 piquet	31 déjeuner	49 million	67 rauque	85 patte	
14 épée	32 ex-femme	50 explosion	68 cinquième	86 pâte	
15 compagnie	33 liège	51 influence	69 nier	87 épais	
16 fête	34 baignoire	52 mâle	70 extraordinaire	88 épée	
17 islamique	35 pêcheur	53 ex-mari	71 meurtre		
18 agneau	36 socialisme	54 pomme	72 vous prendriez		

川口ほか(2012)

# IPCFでの調査方法とタスク：タスク④

## 4. PFC テクストの読み上げタスク（PFCと共有）

Ex)

Le Premier Ministre ira-t-il à Beaulieu?

Le village de Beaulieu est en grand émoi. Le Premier Ministre a en effet décidé de faire étape dans cette commune au cours de sa tournée de la région en fin d'année.

首相はボーリュウに行くのだろうか？

ボーリュウの村は大いに沸き立っている。なぜなら首相は年末の地方への訪問の際にこのコミューンへ訪れることを決定したからだ。

# IPCFでの調査方法とタスク：タスク⑤

## 5. インタビュータスク

- 単一回答を求めるもの

1. あなたは何歳で国籍は何ですか？
2. 何語を話しますか？...など

- 説明回答を求めるもの

7. 今までに海外旅行をしたことがありますか。あるとすれば、その旅行について話してください。...など

# IPCFでの調査方法とタスク：タスク⑥

## 6. 自由会話タスク

- 2人のペアを作り、それぞれがテーマを以下から選択する  
(被った際はどちらかが別のテーマを選択する)

1. 見た映画
2. 読んだ本
3. 訪れた場所 (国、町、美術館など)
4. 日本のこと (料理、習慣、生活様式、祭)
5. 日本と他の国の文化的な違い
6. 大切な思い出 (子供の頃、家族、学校、旅行、エピソード、最初のフランス語の授業)
7. 現在の話題
8. 新聞などの三面記事

- 会話が途切れそうな時は日本語を使用してもよい
- まず一方が選んだテーマについて話した後、今度は逆にもう一方が選んだテーマについて話す

# IPCFでの調査方法とタスク：タスク⑦

## 7. 作文タスク

Ex) jpfrnu015

Quand j'étais écolière, j'ai habité à Bruxelles pendant 4 ans. A ce temps-là, je devais aller à l'école avec ma mère. J'étais très étonné. Parce que j'allais à l'école à pied sans ma mère quand j'étais au Japon.

私は小学生の頃、4年間ブリュッセルに住んでいました。当時、私は母と一緒に登校しなくてはなりませんでした。私はとても驚きました。なぜなら私が日本にいた時は母なしで徒歩で登校していたからです。

# 2. 音声・音韻

東京外国語大学大学院 博士後期課程 伊藤玲子

# 2.1. 子音

## Deley and Racine (2017)

日本語を母語とする学習者の /b/ と /v/ の発音の音響分析

- ◆タスク IPCF-J : 特有単語リストの繰り返し、特有単語リストの読み上げ
- ◆インフォーマント 日本語を母語とする大学生 12人
- ◆同じタスクを4回録音 (2年間)
- ◆分析対象語 (6語)
  - /b/ : base 「基礎」, la base 「その基礎」, l'arabe 「アラビア語」
  - /v/ : vase 「花瓶」, la vase 「その花瓶」, la rave 「カブ」

# Deley and Racine (2017)

## ◆結果

- **/b/と/v/の評価**      4回の全ての録音で **/v/ > /b/** (予想に反して)
  - 日本語の**/b/**の異音[β]の存在
  - 学習メカニズムの心理的影響
- **習得**
  - /b/** : あまり進歩なし
  - /v/** : 改善傾向
- **タスクによる比較**      読み上げ > 繰り返し
  - 視覚情報の影響
- **位置による比較**    **/b/** : 語頭 > 語末 > or = 語中
  - /v/** : 語中 > 語末 > 語頭



# 伊藤・川口 (2022)

## ◆分析対象語 (9語)

[ti] : **petit** 「小さい」, **tic** 「無意識の癖」, **bâti** 「建てられた」

[si] : **sic** 「原文のまま」, **assis** 「座った」, **scier** 「を鋸でひく」,  
**socialisme** 「社会主義」

[fi] : **chic** 「しゃれた」, **hachis** 「ひき肉」

# 伊藤・川口 (2022)

## ◆結果

- 学習者の[tɪ] / [sɪ] / [ʃɪ]の発音は多様
- 読み上げタスク [tɪ] →日本語「チ」 [tɕi]  
[sɪ] →日本語「シ」 [ɕi]
- モントリオール留学経験者 [tɪ] > [tʰɪ] →滞在地の音声特徴を獲得
- [sɪ]と[ʃɪ]のミニマルペア (**sic/chic, assis/hachis**)  
標準的フランス語と同じ発音で対立を持つ学習者 わずか28%
- 綴り字と発音の関係の知識が不十分
- 標準的フランス語との一致率とレベル/留学期間との関連性 なし

## 2.2. リエゾン Racine et Detey (2016)

リエゾンの実現

学習者と母語話者の比較、フランス語圏留学 (6-12ヵ月) との関連性

◆タスク                      IPCF-J, IPCF-E : PFCテキストの読み上げ

◆インフォーマント (B2-C1、大学生)

日本語母語話者17人：      留学あり7人                      なし10人

スペイン語母語話者20人：留学あり10人                      なし10人

フランス語母語話者 (スイス人) 10人

# Racine et Detey (2016)

## ◆結果

- リエゾン全体の実現率

母語話者 ≒ スペイン語話者（有意差なし） > 日本語話者

- 義務的リエゾンの実現率

母語話者 > スペイン語話者・留学あり > スペイン語話者・留学なし

> 日本語話者・留学あり > 日本語話者・留学なし

→6-12カ月の留学 義務的リエゾン実現率を高める

- 留学による影響

日本語話者 顕著に改善

# 近藤 (2022)

日本語を母語とする学習者におけるリエゾンの実現について

## □絶対的リエゾン

「限定詞＋名詞」：冠詞＋名詞, 所有形容詞＋名詞

「代名詞＋動詞」：(il y) en a (there are ...), j'en ai (I have ...) など

→リエゾンが実現されない場合、どのような理由が考えられるか？

## □変動的リエゾン

「être動詞と後続語」：(je) suis + (allé) (I went), (c')est + (it is) など

→留学(約10ヵ月)はリエゾン子音を含まない発音形習得を促すか？

# 近藤 (2022)

◆タスク      IPCF-J :      PFCテキストの読み上げ  
自由会話

◆インフォーマント

日本語を母語とする大学生 (仏語専攻)      8人

◆2回の録音 (間に約 1 年間のインターバル)

インターバルの間にフランス語圏留学 (約10ヵ月)      あり      5人  
なし      3人

# 近藤 (2022)

## ◆結果

### ・絶対的リエゾン

自由会話>テキストの読み上げ

使い慣れていない連辞はリエゾン難しい（視覚情報があっても）

### ・変動的リエゾン

特定連辞：je suis allé(e) (I went), c'est un(e) (it is) など

→発音形が記憶・産出

自由会話と読み上げのリエゾンの調整

→約10ヵ月留学後 できるようになっていない

## 2.3. テクスト朗読の音声 バルカほか (2017)

学習者の朗読の音声の経年変化

- 規範内的進歩の分析 (子音・母音の発音、言い直し)
- 規範外的進歩の分析 (母語話者11人による知覚テスト)

◆タスク IPCF-J : PFCテキストの読み上げ

◆インフォーマント

日本語を母語とする大学生 (仏語専攻) 6人

◆2回の録音 (間に約1年のインターバル)

インターバルの間にフランス語圏留学 (約10ヵ月)	あり	4人
	なし	2人

# バルカほか (2017)

## ◆結果

- ・留学あり

分節音（主に母音）の改善、言い直しの減少→規範内的進歩あり

知覚テスト →規範外的進歩あり

→規範内的進歩・規範外的進歩 概ね一致

- ・留学なし 規範内的進歩・規範外的進歩 低い

- ・規範内的進歩（分節音）なし＋規範外的進歩（音の適切さ）あり

→母語話者 複合的な要因によって朗読の音声を評価

# 3. スピーキング能力、 関係代名詞、 語彙アスペクト

東京外国語大学大学院 博士後期課程 清宮貴雅

# 佐藤ほか（2017） - スピーキング能力

## 内容

- ・ 日本人フランス語学習者23名（A2相当）の
  - ①スピーキング能力の分析（ACTFLとCEFR使用）
  - ②使用学習ストラテジーの分析

## 分析方法

- ・ クラスタリング分析を用いた量的分析

# 佐藤ほか (2017)

## 結論

### ①スピーキング能力 (CEFR評価から)

「やりとり」評価 **高** = 「語彙の適切さ」を重要視

「発表」評価 **高** = 「文法の適切さ」を重要視

### ②使用学習ストラテジー

スピーキング能力 **高**

= 情意ストラテジー・補償ストラテジーを多く使用

# 山口&杉山 (2018)

## 目的

- ・日本人フランス語学習者（中上級者）の関係代名詞の習得・使用の分析

## 方法

作文コーパスにおける関係代名詞の使用数及び先行詞の種類の量的・質的分析

# 山口&杉山 (2018)

## 結論

- 自由に運用できる形態としてはA2レベルまでの関係代名詞  
(特にqui, que) にとどまる

qui : 主格    que : 目的格

- gensやpersonneとの共起が多い

gens, personne : 人

# 小澤 (2019)

## 目的

- ・日本人フランス語学習者の「語彙アスペクト」と「現在形・複合過去形・半過去形の使用」の関係性の分析

## 方法

- ・自由会話での現在形・過去形とアスペクトの組み合わせを分析

# 小澤 (2019)

	状態	活動	完了	瞬間
現在形	68.1%	19.4%	4.4%	8.0%
複合過去形	4.0%	34.2%	37.1%	24.8%
半過去形	86.6%	9.8%	1.8%	1.8%

## 結論

- 時制と語彙アスペクトの組み合わせに偏りは見られる
- 1つの時制＝ひとつの語彙アスペクトではない

松澤&川口 (2020)

Matsuzawa & Kawaguchi (2021)

目的

- ・日本人フランス語学習者の「語彙アスペクト」と「複合過去形・半過去形の使用」の関係性の分析

方法

- ・自由会話での過去形とアスペクトの組み合わせを分析

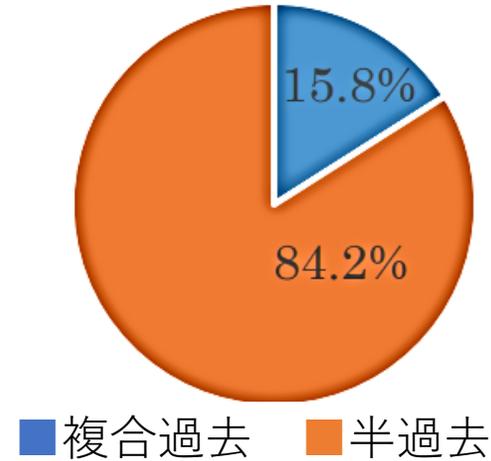
# 松澤&川口 (2020) Matsuzawa & Kawaguchi (2021)

## 結論

語彙アスペクトは重要な役割をしている。

複合過去形での使用が非常に多かった。

状態  
(253 tokens)



活動  
(140 tokens)



達成  
(51 tokens)



到達

(92 tokens)



# 4. 人称代名詞、不定代名詞

東京外国語大学大学院 博士後期課程 鈴木拓真

# 0. 多様な用法をもつ不定代名詞on

- 不定代名詞onの学習者による使用の研究は世界規模でみても数少ない。とくに、日本語母語話者による使用の研究については、本科研以前は皆無。
- 多様な用法を持つことで知られる不定代名詞onは、主語人称代名詞との比較を通じて多く観察されてきた。

On va prendre un verre ce soir ? 1人称複数主語代名詞として用いられるon (cf. *nous*)

(今晚一杯飲みに行かない?)

Au Québec, on parle français. 「人一般」を指す総称用法on

(ケベックでは、フランス語が話されている。)

On a frappé à la porte. 「誰か」を表す特定用法on

(誰かがドアをノックした。)

On ne nous a pas demandé notre avis. (Hansen, 2013 : 130) 文体的用法 (cf. 3人称複数*ils*)

(あいつらは私たちに意見を聞いてこなかった。)

# 1. 鈴木 (2019)

- 比較的大きな規模の学習者コーパスを用いて、onの日本人学習者による使用を主に用法的観点から記述した研究.
- CEFR A1～C2レベルの日本人学習者48名  
(A1 1名, A2 2名, B1 14名, B2 13名, C1 7名, C2 3名, 不明 8名)
- インタビュータスク内で学習者が発話したonを調査
- インタビュータスクでのフランス語母語話者による質問例  
母語話者 : No. 6 Est-ce que le français pour toi c'est facile ? C'est difficile ?  
(あなたにとってフランス語は簡単ですか? 難しいですか?)  
学習者 : \*\*\* 学習者の回答 \*\*\*  
母語話者 : Pour quelles raisons ?  
(どんな理由でですか?)

# 1. 鈴木 (2019)

- 1人称複数主語代名詞として，学習者は母語話者と同様onを使用し， nousはほとんど使用せず.
- 「...はどうなのでしょう？」 Comment dit...? (41例)  
(cf. Comment on dit...? (15例) / Comment dire...? (52例))
- 前方照応的onの用例 (11例) (onがLes Françaisを受けている)  
Les Français on ne comprend pas euh cette idée  
(フランス人たちはこの考えを理解していない)  
(cf. 母語話者であればonではなく3人称複数ilsを用いるところ)

## 2. 鈴木・伊藤・清宮・川口 (2020)

- ①日本人学習者は、母語話者と同様に、1人称複数主語代名詞にonを頻繁に用いるか？
  - ②1人称複数以外の用法でどのような用法でonを使用するのか？
  - ③学習者が使用するonと、フランス語学習期間およびフランス語圏滞在期間との関連性は？
- CEFR B2～C1レベル相当の日本人学習者10名  
(学習期間・フランス語圏滞在期間はさまざま)
  - 学習者同士による自由会話タスク内のonを調査

## 2. 鈴木・伊藤・清宮・川口 (2020)

①日本人学習者は、母語話者と同様に、1人称複数主語代名詞にonを頻繁に用いるか？

→母語話者同様onを多用。一方、nousは全体でも2例のみ

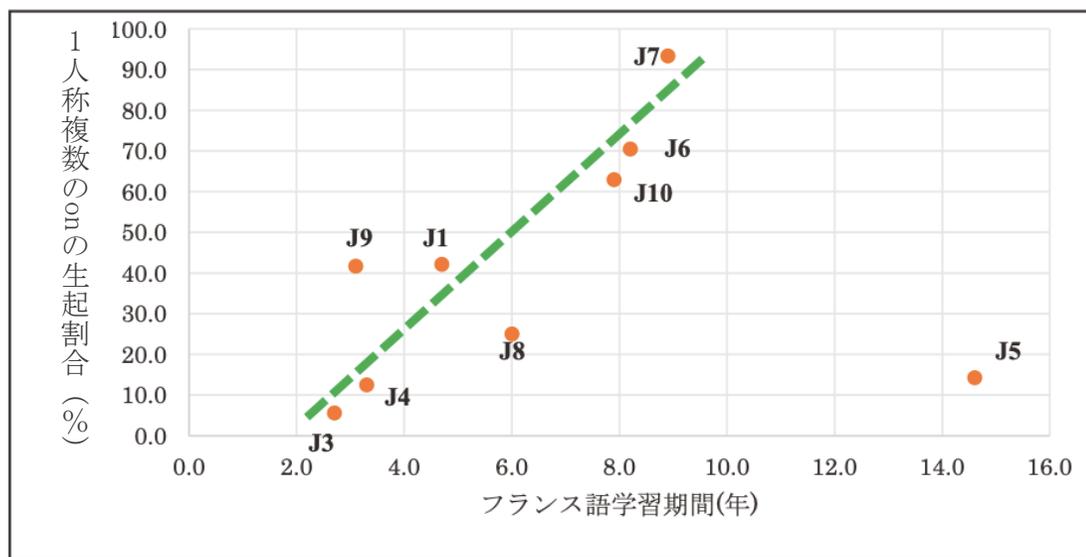
②1人称複数以外の用法でどのような用法でonを使用するのか？

ここでは「人一般」を指す不定総称的用法のみ観察された。

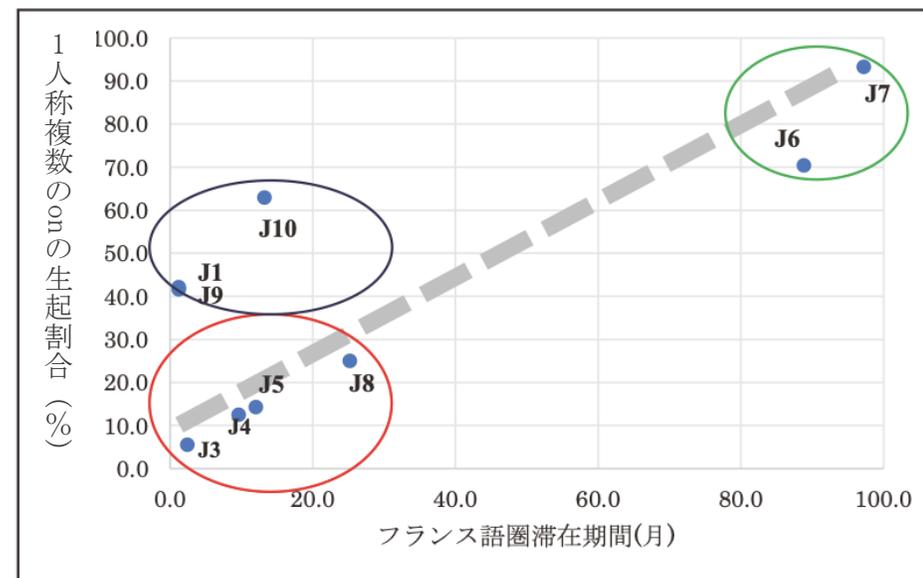
## 2. 鈴木・伊藤・清宮・川口 (2020)

- ③学習者が使用するonと，フランス語学習期間およびフランス語圏滞在期間との関連性は？

→1人称複数主語代名詞としてのonの使用と，学習期間・滞在期間との関連



1人称複数用法のonの生起割合と学習期間  
(p. 80 図2を一部改変の上引用)



1人称複数用法のonの生起割合とフランス語圏滞在期間  
(p. 81 図3を一部改変の上引用)

### 3. バルカ・ドウテ・川口 (2022)

- 学習者の使用する1人称単数人称代名詞を用いたコロケーションを、母語話者の使用との比較を通じて考察.
- CEFR B1～C2レベルの日本人学習者83名
- 学習者：IPCF-Jコーパスのインタビュータスクおよび自由会話タスク
- 母語話者：TUFSSコーパス（学習者コーパスと同規模）
- 調査対象の1人称単数人称代名詞を用いたコロケーション
  - 1) Moi je (強勢形＋主語人称代名詞)  
donc euh # **moi** je parle euh # le je sais pas comment dit # hyoujungo  
(だから、私はなんていうの、「標準語」を話してるの)
  - 2) Moi mon N（強勢形＋所有形容詞＋名詞）

### 3. バルカ・ドウテ・川口 (2022)

- Moi j'aime la mer, mais mon père n'aime pas ça.

(私は海が好きだけど，父は好きではない。)

上にあげた対比的用法を除き，moi jeはje単体と比して特殊なニュアンスが付加されることはない。 このようなmoi jeは話し言葉の特徴とされる。

- 母語話者ほどではないものの，学習者によるmoi jeの使用も一定数観察される。 (母語話者 508例 vs 学習者 148例)
- moi jeは学校の授業等でこの表現に遭遇する機会は少ないと想定されるが，それでも学習者にもまとまってmoi jeが観察されるのは，授業外で母語話者の発話に触れたことで，学習者も使用するようになった可能性を示唆。

# 5. 談話標識

東京外国語大学大学院 博士後期課程 國末薫

# 談話標識とは

◆談話標識については、研究者の間で定義や名称が一致していないが、本発表で紹介する研究は、概ね以下の特徴 (Dostie & Pusch 2007 : 3-4) に当てはまる談話標識を対象としている。

- 形態的に変化しない。
- 発話の命題内容に寄与しないため、その有無によって、発話の真偽が変わらない。
- 統語的に周辺的であるため、消しても非文にならない。
- 発話の中で様々な位置を占めることができる。
- 文を超え、様々な機能を果たす。

# 日本人フランス語学習者の談話標識の研究

- ◆日本人フランス語学習者の談話標識の使用に関する研究は未だ希少である。
- ◆本科学研究費の枠組みで実施された以下の研究では、学習者コーパス(IPCF-J)と母語話者(TUFS)を比較し、分析している。

研究	主に研究対象となった談話標識
Sugiyama (2017a)	enfin (つまり、というか), hein (ねえ), quoi (つまり), bon (よし), alors (さて), voilà (ほら), tu vois (ほら), tu sais (ねえ、...でしょう), quand même (やはり), en fait (実は)
Sugiyama (2017b)	c'est (それは)
秋廣 (2020)	euh (ええと)
Barcat et al. (2022)	mais (でも)
國末 (2022a, 2022b)	par exemple (例えば)

# Sugiyama (2017a)

## ◆研究手法

- 学習者と母語話者のコーパスを用いて特徴語を抽出し、学習者の談話標識の使用を調査している。

	学習者 (IPCF-J 自由会話の一部)	母語話者 (TUFS 2005, 2009, 2011 の一部)
総語数	34518 語	65592語
話者数	38人	20人

## ◆結果

- 学習者は、*enfin* (つまり、というか), *hein* (ねえ), *quoi* (つまり), *bon* (よし), *alors* (さて), *voilà* (ほら), *tu vois* (ほら), *tu sais* (ねえ、...でしょう), *quand même* (やはり), *en fait* (実は) を過少使用していた。
- フランス語圏に滞在経験のある学習者は、滞在経験のない学習者と比較して談話標識を使用する頻度が高い。中でも、*en fait* (実は) が著しく使用されていた。

# Sugiyama (2017b)

## ◆研究手法

- 学習者と母語話者のコーパスを比較し、**c'est** (それは) の使用を調査した。
- フランス語圏に滞在経験のない学習者と滞在経験のある学習者、母語話者に分けて分析を行った。

	学習者 (IPCF-J自由会話の一部)	母語話者 (TUFS 2009の一部)
総語数	44773語	65576語
話者数	46人	20人

## ◆結果

- フランス語圏に滞在したことのある学習者は、**c'est** を母語話者より頻繁に使用していた。中でも、**c'est ça** や **c'est vrai** という形で、コミュニケーションストラテジーとして使用される例が多かった。
- 滞在経験のない学習者は、**c'est** をターンの末尾に使用する傾向にあった。

# 秋廣 (2020)

## ◆研究手法

- 学習者と母語話者のインタビューデータを比較し、Crible (2018) の定義に基づき、習熟度別に談話標識の頻度、種類、**eah** (ええと) の使用を調査した。

## ◆結果

- 習熟度のレベルが上がるにつれて、談話標識の頻度と種類が多くなる。
- 談話標識 **eah** (ええと) については、学習レベルが上がるにつれて、様々な機能や発話の位置で使用されるようになる。

学習者	総語数	CEFR
学習者A (IPCF-J インタビュー)	1668語	A2~B1
学習者B (IPCF-J インタビュー)	2593語	B1~B2
学習者C (IPCF-J インタビュー)	1907語	B2~C1
母語話者 (TUFS 2005 インタビュー)	2482語	母語話者

# Barcat et al. (2022)

## ◆研究手法

- 学習者と母語話者のコーパスを比較し、高頻度の語彙とコロケーションの調査を行った。

	学習者 (IPCF-J 自由会話+インタビュー)	母語話者 (TUFS 2009, 2011 の半分)
総語数	428000 語	423000 語
話者数	83 人	48人

## ◆結果

- 学習者は、**mais**（でも）を過少使用していた。
- 談話標識としての **mais** の用法である **non/nan mais**（いや、でも）及び **mais bon**（でも、まあ）の出現頻度を調査したところ、学習者は、これらのコロケーションを使用する頻度が母語話者と比較し低かった。

# 國末 (2022a, 2022b)

## ◆研究手法

- 学習者と母語話者のコーパスを比較し、学習者の *par exemple* (例えば) の使用を調査した。

	学習者 (IPCF-J自由会話)	母語話者 (TUFS 2010自由会話)
総語数	222602 語	512816 語
話者数	83人	69人

## ◆結果

- 学習者は、母語話者と比較して *par exemple* を過剰使用していた。
- 学習者の使用では、相手との会話を継続するための談話ストラテジーとして、*par exemple* が使用されることが多かった。

# まとめ

- 学習者の談話標識の使用については、学習者コーパスのデータを使用し、量的・質的な研究が進められている。
- 個々の談話標識によって、学習者が過少使用するものと過剰使用するものがある。
- 学習者は、習熟レベルが上がるにつれ、高い頻度で談話標識を用いる傾向にある。
- *enfin* (つまり、というか), *hein* (ねえ), *quoi* (つまり), *bon* (よし), *alors* (さて), *voilà* (ほら), *tu vois* (ほら), *tu sais* (ねえ、...でしょう), *quand même* (やはり), *en fait* (実は) などの談話標識については、フランス語圏滞在経験の有無により、談話標識の使用頻度に明確な差が見られた。

# 6. 語彙

実践女子大学 時田朋子

# 研究発表

1. 時田朋子、川口裕司 (2022). 「フランスとカナダの留学経験者の自由会話における文化的特徴」 基盤研究 (B) 『言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析』 (20H01279) 第1回研究会：学習者言語分析I：音声特徴と語彙特徴、2022年9月8日、Zoom開催.
2. 時田朋子、川口裕司、バルカ・コランタン (2022). 「フランス語中・上級学習者が自由会話タスクで使用する動詞：ネイティブスピーカーの話し言葉コーパスとの比較」 外国語教育学会第26回大会、2022年11月12日、Zoom開催.

# 1. 「フランスとカナダの留学経験者の自由会話における文化的特徴」

- 目的：

フランス語学習者が変種固有の特徴を習得して使用する実態を、語彙の側面から捉える

- リサーチクエスチョン：

- ①ケベック州留学経験者が特徴的に使用する語は、ケベック・フランス語固有の特徴を有するか
- ②ケベック州における留学期間の長さにより、特徴的に使用される語に差異があるのか

- 調査方法：

- 学習者同士の自由会話タスクコーパスを使用
- ケベック州留学経験者3名が特徴的に使用する語を未経験者17名との比較から、特徴語分析により抽出

- 結果：

- ①留学経験者は、ケベック州でよく話題にされる語を有意に過剰使用  
ex) “il **faisait** environ mh **trois degrés.**” (だいたい3度くらいでした。)  
“il **faisait** très euh trop **chaud.**” (とても、あの、とても暑かったです。)

- ②留学期間が長い被験者ほど、ケベック州で話題にされる語 (ex. 気温、天候) を有意に過剰使用

## 2. 「フランス語中・上級学習者が自由会話タスクで使用する動詞： ネイティブスピーカーの話し言葉コーパスとの比較」

- 目的：

フランス語中・上級学習者が、ネイティブスピーカー（NS）と比較して、特徴的に使用する動詞を抽出し、学習者が流暢な話し手になるために必要な教育的課題を明らかにする

- リサーチクエスチョン：

- ①学習者は、NSに比べ、どのような動詞を過剰・過少に使用するのか
- ②学習者が過少に使用する動詞を、学習者・NSはどのように使用するのか
- ③学習者が流暢な話し手になるために必要な動詞は、どのような共起表現で使用されているのか

- 調査方法：

学習者同士の自由会話タスクコーパスとNS話し言葉コーパス（TUFCSコーパス）の比較

結果①:  
 学習者が、  
 過剰・過少に使用する動詞は、  
 a) 全て基本動詞  
 b) 多様な活用形

動詞・不定詞	過剰・過少使用動詞
avoir (持つ)	ai, avez, avoir, ont, eu, aurait, a
être (ある)	était, êtes, soit, serait, sera
aller (行く)	allée, allez, vont
voir (見る)	vois, voyez, voir
faire (する)	fait *, faire
aimer (好む)	aime
étudier (勉強する)	étudier
falloir (必要である)	faut
dire (言う)	dis
vouloir (望む)	voulez
pouvoir (できる)	pouvez
donner (与える)	donner
mettre (置く)	mettre
excuser (許す)	excusez
plaître (気に入る)	plaît
passer (通る)	passer

結果②：学習者が過少に使用した動詞を含む共起表現は、NSに比べて種類が非常に少ない

avoir

		学習者	NS
1	d'avoir	9	29
2	après avoir	8	
3	avoir un		19
4	avoir des		15
5	avoir une		12
6	avoir euh		11
7	faut avoir		10
8	d'avoir un		9
9	pour avoir		9
10	à avoir		9
11	il va y avoir		8
12	y en avoir		8
13	avoir les		8
14	d'avoir des		7

eu

		学習者	NS
1	j'ai eu	17	27
2	il y a eu		24
3	pas eu		15
4	on a eu		13
5	eu des		12
6	as eu		9
7	eu de		8
8	eu euh		8
9	eu la		8
10	eu le		8
11	a eu une		7
12	avait eu		7
13	ont eu		7
14	a eu un		6

# 結果③：学習者が使用せずかつNSが使用する共起表現を、 統語構造ごとにまとめたリストの作成

## avoir

avez		avoir	eu	aurait
vous avez un	si vous avez des	il va y avoir	il y a eu	il y aurait
vous avez une	si vous avez	faut avoir	on a eu	ça aurait
vous avez de	donc vous avez	y en avoir	as eu	on aurait
vous avez des	et vous avez	d'avoir un	ont eu	
vous avez le	là vous avez	d'avoir des	avait eu	
vous avez la		à avoir	a eu un	
vous avez pas		pour avoir	a eu une	
vous avez vu		avoir un	pas eu	
vous avez déjà		avoir une	eu de	
vous avez euh		avoir des	eu des	
vous m'avez		avoir les	eu le	
vous l'avez		avoir euh	eu la	
vous n'avez pas			eu euh	

# 参考文献

はじめに

Detey S., Racine I., Kawaguchi Y., Eychenne J., *La prononciation du français dans le monde*, 2017, CLÉ International.

Granger S. et al. (eds.) *The Cambridge Handbook of Learner Corpus Research*, Cambridge Handbooks in Language and Linguistics, 2015, Cambridge University Press.

Kawaguchi Y. et al. (eds.) *Corpus Analysis and Variation in Linguistics*, 2009, John Benjamins.

Tono Y. et al. (eds.) *Developmental and Crosslinguistic Perspectives in Learner Corpus Research*, 2012, John Benjamins.

川口裕司、矢頭典枝、秋廣尚恵、杉山香織、『フランコフォンの世界』, 2019, 三省堂.

## 1. IPFCプロジェクト

論文

Durand J., Laks B., Lyche C., « La phonologie du français contemporain: usages, variétés et structure », in C. Pusch, W. Raible (éds), *Romanistische Korpuslinguistik- Korpora und gesprochene Sprache/Romance Corpus Linguistics – Corpora and Spoken Language*, 2002, Tübingen : Gunter Narr Verlag, 93-106.

Racine I., Detey S., Zay F., Kawaguchi Y., « Des atouts d'un corpus multitâches pour l'étude de la phonologie en L2: l'exemple du projet « Interphonologie du français contemporain » (IPFC) », in: Kamber, A., Skupiens, C. (éds), *Recherches récentes en FLE*, 2012, Berne: Peter Lang, pp. 1-19.

川口裕司、松澤水戸、杉山香織、近藤野里、ドウテ・シルヴァン、「現代フランス語の中間言語音韻論－IPFC-japonaisプロジェクト－」『コーパスに基づく言語学教育研究報告9』, 2012, 東京外国語大学大学院総合国際学研究所, 35-69.([http://cblle.tufs.ac.jp/assets/files/publications/working\\_papers\\_09/section/035-069.pdf](http://cblle.tufs.ac.jp/assets/files/publications/working_papers_09/section/035-069.pdf))

口頭発表

Detey S. et Kawaguchi Y., « Interphonologie du Français Contemporain (IPFC): récolte automatisée des données et apprenants japonais », *Journées PFC: Phonologie du français contemporain: variation, interfaces, cognition*, Paris, Dec. 11-13, 2008.

# 参考文献

鈴木拓真、中川亮、川口裕司, 「IPCFプロジェクトから対照中間言語分析へ: フランス語, ポルトガル語, 日本語, トルコ語の対照中間言語分析」, 国際ワークショップ『言語コーパスと学習者言語をめぐって』, 2018. ([http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/assets/images/workshop2018/20181105\\_suzuki\\_nakagawa\\_kawaguchi.pdf](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/assets/images/workshop2018/20181105_suzuki_nakagawa_kawaguchi.pdf))

## Web

*FLORAL-PFC – Base de données sur le français oral contemporain dans l’espace francophone.* (<http://www.projet-pfc.net/>)

*IPFC : Interphonologie du Français Contemporain (IPFC).* (<http://cblle.tufs.ac.jp/ipfc/>)

*TUFS Global COE.* (<http://cblle.tufs.ac.jp/ja/>)

## 2. 音声・音韻

Detey S. & Racine I., “Towards a perceptually-assessed corpus of non-native French : the InterPhonology of Contemporary French (IPFC) project illustrated with a longitudinal study of Japanese learners’ /b-v/ productions”, *International Journal of learner Corpus Research* 3(2) : 223-249, 2017.

Racine I. et Detey S., « La liaison dans un corpus d’apprenants : le projet interphonologie du Français contemporain », *Corpus* 15 : 237-264, 2016.

伊藤玲子、川口裕司, 「日本語を母語とするフランス語学習者50人の発音特徴—[i]の前の[t]、[s]、[ʃ]の発音について—」, 『外国語教育研究』 25 掲載決定, 2023.

近藤野里, 「縦断的な発話データを用いたフランス語学習者によるリエゾンの習得の分析」, 『外国語教育研究』 25 掲載決定, 2023.

バルカ・コランタン、伊藤玲子、関敦彦、川口裕司, 「中級フランス語学習者によるテキスト朗読—経年的観察—」, 『2017年12月 外国語教育学会第21回研究報告大会発表』, 2017. (口頭発表)

# 参考文献

## 3. スピーキング能力、関係代名詞、語彙アスペクト

小澤南海, 「フランス語学習者の自由会話における動詞使用」, 『西南学院大学大学院研究論集』 9号 : 19-34, 2019.

佐藤千秋、ファールエロディ、川口裕司, 「初級フランス語におけるスピーキング能力の可視化 —タスク評価法と学習ストラテジーの観点から—」, 『外国語教育研究』 20号 : 1-18, 2017.

松澤水戸、川口裕司, 「日本人フランス語中上級学習者のフランス語自由会話における複合過去と半過去の使用と傾向」, 『外国語教育学会第24回大会（2020年11月8日オンライン開催）』, 2020. (口頭発表)

山口奈美、杉山香織, 『日本人フランス語学習者の書き言葉における名詞修飾の分析』, 『国際ワークショップ 言語コーパスと学習者言語をめぐって（2018年11月5日東京外国語大学にて開催）』, 2018. (口頭発表)

Matsuzawa M., & Kawaguchi Y., “Passé composé and imparfait in Japanese learners of French”, *Flambeau*: 61-76, 2020.

## 4. 人称代名詞、不定代名詞

### 紀要論文

鈴木拓真、伊藤玲子、清宮貴雅、川口裕司, 「日本人フランス語学習者の自由会話におけるonの一考察」, 『ふらんぼー』 45 : 71-85, 2020, 東京外国語大学.

Hansen, A. B., “ Diaphasic variation and change in French pronouns. Different uses of on with special reference to the on/nous alternation”, *Deixis and Pronouns in Romance Languages* : 125-144, 2020, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

# 参考文献

## 学会発表

伊藤玲子、清宮貴雅, 「日本人フランス語学習者の自由会話における不定代名詞onの分析」, 国際ワークショップ『言語コーパスと学習者言語をめぐって』 (於 東京外国語大学), 2018年11月5日.

伊藤玲子、清宮貴雅、川口裕司, 「日本人フランス語学習者の自由会話におけるonの一考察」, 『外国語教育学会第22回研究報告大会 (於 東京外国語大学) 』, 2018年12月16日.

鈴木拓真, 「日本人フランス語学習者の不定代名詞onの使用をめぐって」, 『基盤研究B (16H03442) 第8回研究会 (於 東京外国語大学本郷サテライト) 』, 2019年9月8日.

鈴木拓真、中川亮、川口裕司, 「IPCFプロジェクトから対照中間言語分析へ」, 国際ワークショップ『言語コーパスと学習者言語をめぐって』 (於 東京外国語大学), 2018年11月5日.

バルカ・コランタン、ドゥテ・シルヴァン、川口裕司, 「Moi je, Moi mon・ma・mes : フランス語学習者と母語話者のコロケーションの比較」, 『基盤研究B (20H01279) 第3回研究会 (zoom会議によるオンライン開催) 』, 2022年2月21日.

## 5. 談話標識

### 談話標識の研究

Crible, L., *Discourse markers and (dis) fluency: Forms and functions across languages and registers*, 2018, Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.

Dostie, G. & Pusch, C., « Les marqueurs discursifs. Sens et variation », *Langue française 154* : 3-12, 2004, DOI : 10.3917/lf.154.0003.  
(口頭発表)

# 参考文献

## 学習者の談話標識の研究

Barcat, C., Kawaguchi, Y., Detey, S., “ Frequency and collocations in L1 and L2 French: Très, beaucoup, mais, penser, and croire in Japanese learners’ speech ”, *JAFLE BULLETIN*, 25 : 130-147, 2022.

Sugiyama K., « Différences dans l’utilisation des marqueurs discursifs : analyse comparative entre apprenants et Français natifs », *Le Français en contextes*, 2017, Presses universitaires de Perpignan (2017a).

Sugiyama, K., « Utilisation de "c'est" chez les apprenants japonais du français - Analyse basée sur le corpus IPFC-JP », *Actes du colloque international 2016 - Échanges culturels d’aujourd’hui: Langue et littérature* : 215-231, 2017 (2017b).

秋廣尚恵, 「フランス語の談話標識と（非）流暢性」, 『日本語プロフィシエンシー研究』, 8 : 111-134 , 2020.

## 口頭発表

國末薫, 「日本人学習者の *par exemple* 一学習者コーパスと母語話者コーパスの比較を通じて一」, 『基盤研究（B）第1回研究会：学習者言語分析I：音声特徴と語彙特徴』, 2022年9月8日, Zoom開催 (2022a).

國末薫, 「自由会話における *par exemple* 一フランス語母語話者と日本人フランス語学習者の使用一」, 『東京フランス語学研究会第55回研究会』, 2022年11月5日, Zoom開催 (2022b).

## 6. 語彙

時田朋子、川口裕司, 「フランスとカナダの留学経験者の自由会話における文化的特徴」, 基盤研究（B）『言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析』（20H01279）第1回研究会：学習者言語分析I：音声特徴と語彙特徴, 2022年9月8日, Zoom開催.

時田朋子、川口裕司、バルカ・コランタン, 「フランス語中・上級学習者が自由会話タスクで使用する動詞：ネイティブスピーカーの話し言葉コーパスとの比較」, 『外国語教育学会第26回大会』, 2022年11月12日, Zoom開催.